

南富良野浄化センター

快適で住みよい生活環境づくり



下水道は、環境づくりのパスポート



南富良野町



浄化センターの概要 (下水終末処理場)

この下水処理場は、南富良野町特定環境保全公共下水事業により平成7年度より建設が進められ平成11年3月31日から供用を開始しました。

建設に際しては、過疎地域活性化措置法により、南富良野町に代わって北海道が日本下水道事業団に委託し建設されました。

水処理方式は、維持管理も容易なおキシデーションディッチ法を採用し、運転管理にあつては電子計算機により集中管理を行い管理の省力化に努めています。

また、硝化脱窒運転と凝集剤の添加により高度処理を行い清浄な環境保全に配慮する施設となっています。

汚泥処理方式は濃縮脱水処理を行い農地に還元する予定です。

市街地から集められた汚水は、この下水終末処理場で浄化したのち、普通河川松井川に放流されます。

- 名 称/南富良野浄化センター
- 所 在 地/南富良野町字幾寅503番地2、505番地、507番地1
電話0167-52-2524
- 敷 地 面 積/11,300㎡
- 下水排除方式/分流式
下水道処理～オキシデーションディッチ法
汚泥処理～濃縮・機械脱水
- 処 理 面 積/123.7ha(全体計画175.4ha)
- 処 理 人 口/5,445人(全体計画7,080人)
内定住人口/2,145人(全体計画2,550人)
- 処 理 能 力/1,435㎡/日(全体計画1,735㎡/日)
- 事 業 費/16億9,363万円(平成7年度～平成10年度)
- 供 用 開 始/平成11年3月31日
- 施 設 名 称/内容
- 管 理 棟/RC造、地下2階、地上2階、PH1階
(B2/106.68㎡ B1/282.89㎡ 1F/570.20㎡
2F/442.51㎡ PH/64.40㎡) ●延床面積…1,466.68㎡
- 水 処 理 棟/RC造、地下1階、地上1階
(B1/215.69㎡ 1F/676.03㎡) ●延床面積…891.72㎡
- 合 計/.....2,358.40㎡



浄化センターの機械設備



■会議室

この部屋で会議や一般来場者に説明を行います。



■汚泥濃縮タンク

余剰汚泥として引き抜いた汚泥をさらに一定期間滞留させて、汚泥濃度を高める設備。



■電気室

浄化センターの動力電源の供給箇所。



■発電機

停電時に使用する非常用発電機。



■水質試験室

汚水や放流水の水質を検査するところ。



■監視室

監視室内に設置されたコンピューターにより各施設の運転制御を行い各機械施設の自動運転を行います。



■融雪槽

町花「ヒナゲシ」と町木「クルミ」、カナディアンカヌーをモチーフにしたマンホール蓋デザインの噴水型融雪槽で、冬期間は玄関前部分の融雪と夏期間は脱塩素と溶存酸素量を高めることを目的とした当施設のシンボル設備。

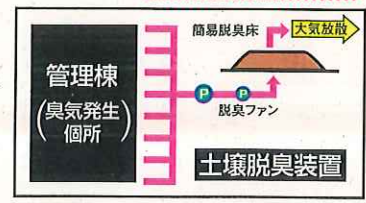
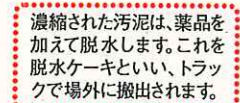
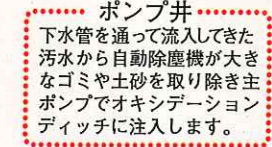


■土壌脱臭装置

土の中に棲む微生物により、臭気を取り除く装置で、高脱臭性能を誇りランニングコストが低い脱臭装置です。

浄化サ
フロー

主ポンプで揚水された汚水に活性汚泥(好気性の微生物を多量に含んだ泥)を混合し、ローターを回転させて空気を供給すると、微生物は水に溶けた酸素を呼吸し汚水中の有機物(汚物)を吸収分解しながら増殖し、沈みやすくなります。また、ローターを動かしたり止めたりしながら滞留時間が、空気が少ない嫌気状態をつくり、窒素を分解処理する嫌気微生物を活動させる硝化脱窒運転をします。



下水道代行事業

■下水道代行事業の着手と完成年度

《着手》平成6年度 《完成》平成10年度

実施内容

終末処理場	オキシデーションディッチ法	処理能力 1,435m ³ /日
管渠	管径 $\phi 200\text{mm} \sim \phi 350\text{mm}$	代行延長 9,413m
マンホールポンプ所		7カ所

浄化センターの機械設備

最新鋭の技術と設備による優れた浄化能力。



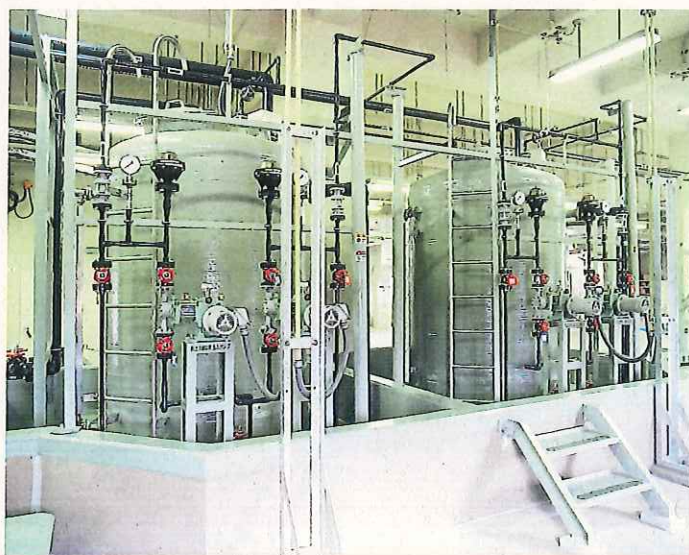
■主ポンプ設備

下水道管を流れてきた汚水をオキシデーションディッチに贈る設備。



■曝気装置

ディッチ内の汚水に必要な酸素を供給する機械。



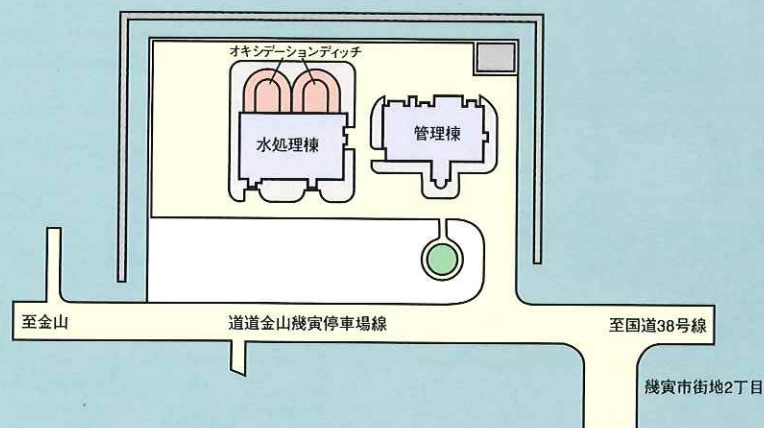
■薬剤注入装置

燐を除却する薬剤をオキシデーションディッチに注入する装置。



■最終沈殿池

ディッチ内にて微生物処理した処理水を流入させ、汚れの成分の重さによって分離してきれいな上澄み液を取り出すところ。



南富良野浄化センター

南富良野町字幾寅岐阜 電話0167-52-2524